

⑨ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭58—130040

⑤ Int. Cl.³
A 61 F 15/02

識別記号

庁内整理番号
7033—4C

⑬ 公開 昭和58年(1983)8月3日

発明の数 1
審査請求 有

(全 2 頁)

⑭ ギブスカッター

大阪市東淀川区豊里2丁目1番
6—205

⑯ 特 願 昭57—13727

⑰ 出 願 人 上田清

⑱ 出 願 昭57(1982)1月29日

大阪市東淀川区豊里2丁目1番
6—205

⑲ 発 明 者 上田清

明 細 書

1 発明の名称

ギブスカッター

2 特許請求の範囲

鋭角な刃部を付けた蓋り込み部(A)体に刃巾を設け受部(B)体の中央に同様刃巾の溝(3)を設けA・Bの交錯によって切り取られたギブスはその溝を通じて上外部に切り出すことを特徴とするギブスカッター。

3 発明の詳細な説明

医療機関に於て骨折に因る患部の矯正を終りギブスに依って患部の保護に努め適時接骨の状態に応じてギブスカットを行う時現在の医療機関、病院等に於て使用される器具には一般工具用のグラインダー鋸に依ってカット作業が行はれこれによって病院内は騒音に悩まされ又患者にとっては恐怖感を覚え作業中はその附近一帯に白い粉塵の浮遊物が多く医学上の見地からしても音、浮遊物、患者の恐怖感等を排除しなければならないものとしてギブスカッターを発明したものであるギブス

カッターの使用によって静かな病院が懸念される。

発明者は或る時小急ぎの用件のため小走り中足を踏みはずし転倒した時手首を物体に強打し骨折しよく見るとその部で擦れ違っているのを発見し骨は折れたものでなく蓋り落とされたように直感したこの切れ方は鉄類の切断に用ひられる冷鉄鋸の力学を引用した切れ方であって当時の動作を思ひ返しては冷鉄鋸の威力を感じ至急病院に駆け込み処置を受け数日後にギブスカットが行はれる時グラインダー鋸を使用されたので不安を感じ再び冷鉄鋸の作用をギブスカッターに取り入れ試作研究を続けた結果出願したものである。

本カッターは鋸式で冷鉄鋸の重要な力学を引用したもので図(1)と(2)の交錯によって(3)の溝部からギブスの切り取られたものがウドン状を呈し乍ら切り出されるのであるギブスの様に固いものは第3図(A)の両切歯部と(B2)の刃部の強力なる蓋り込みによって容易に切り取ることが出来る切歯部を強くするため(1)のA面中央部から切部近くまで弓

状の窪みを設けることにより型れ度合を良くする。

第4図分離パネはギブスの内面に付けてある綿花を揃い分けギブスの型取り作業を助けるものでスプリングとして使用し取付部の穴は第2図(5)に示す右と左の位置を約4mm前後して設けこれに第4図スプリング(5)の部を押入する又スプリング(4)の部は左右傾差20~30度位に曲げておけば自動スプリングとなり常に(4)体を軽く押えギブスと綿花の中間を分離し乍ら先行するもので切り離し作業を容易ならしめるものである。

4 図面の簡単な説明

第1図 斜面図

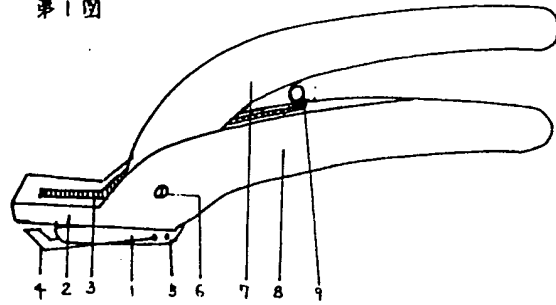
第2図 A体側面図

第3図 型刃部断面図

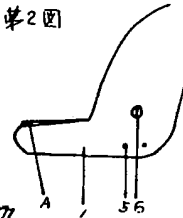
第4図 スプリング側面図

A…型刃 B…台刃 1…切込刃 2…受刃
3…切り出し溝 4…パネ本体 5…パネ固定
6…軸ナット 7…握柄A 8…握柄B 9…バネ
特許出願人 上田 清

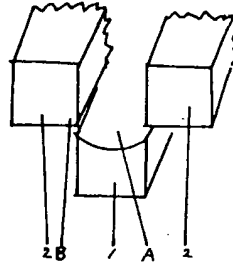
第1図



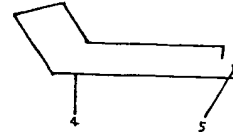
第2図



第3図



第4図



BEST AVAILABLE COPY